

# 第5号

発行者 東和地域集落支援員

連絡先 66-2490

発行日 平成30年12月27日



# 集落支援員だより

## 地域を思う

今回は、戸沢川向区の菅野敬さんにひと言いただきました。

〜雑感〜



戸沢川向区 菅野 敬さん

今から六十年前、高校一年の時、「口太山に火をたきて理想を友と語らえば」と歌を教わった先生が、これからの農業は曲がり角に来ているとよく言っていた。

日本の経済成長のド真ん中、親を助け子供を育て、地域に溶け込み、苦しみもあり、楽しくもあり、さまざまな体験をしてきた。夢中に生きてきていたようにも思う。  
そして今、足を止めて振り返り、悔いなしと考えているが、さて、今後はと前を見る時、現在の諸問題、課題にどう向き合うことができるか質してみる。

年を重ねて高齢化社会の主役、老人クラブ入会、役員も引き受け、楽しく健康で暮らせるようにと、先輩後輩の間で活動している。そんな中で私は、無理やり型通りやること等には気を付けるようにしている。縦割りにとらわれ役員・会員に負担増となるが多々ある。

私達はもう十二分、社会や会社、職場にて一生懸命企業戦士として、各リーダーとして尽くしてきました。もう体力も気力もあと少しだ。(高齢者とし

## ての意見

その残された宝をどのように使うかは、各自一人一人違うと思う。何の集団にも入らずマイペースに暮らす人、色々な集団に入り楽しく生きがいを感じて暮らす人、現在の社会環境の状況を案じ頭を悩ませている人など、千差万別だ。

そこで私も、地域のことでも皆さんと同じ思いであるが、憂いてはいない。自分のできることをやって見せることが大事だと思っている。いくら話しても、やって見せなくては、人はついてこないのではないか。

この狭い日本の土地なのに、余っている現状(遊休荒廃農地)をどう見るか。政治が行政が、と思われる。農業者から見れば失敗策とも思われるが、国全体から見ると大ヒットではないのか。企業優先し労働力を集め、給料を出し生活が安定し、個人が家を建て車を買う。見事に経済成長時代からバブルを経て現在に至ってきたと感じている。

若者の時代は若者が知恵を出すこと、私達が先頭に立つて行くのではなく、後援してはどうか。

「少年よ大志を抱け」「若者よガンバレ」

私は、作物を育てる・作る・食べる・見る喜びを感じながら、喜んでくれる仲間の顔を浮かべて今日も健康に留意して農地と生きています。

\*菅野さん、

貴重なご意見をありがとうございます。

ございました。



## 地域イベントレポート

### 伝承教室



十二月十一日、東和小学校六年生三十四名を対象に、伝承教室『しめ縄作り』を開催しました。この『しめ縄作り』は、地域の生活・伝統・文化の継承と世代間の交流を目的として始まり、今年で二年目になります。

講師には、太田地区の小野一喜さん・草野友一さん、針道地区の大槻貞芳さんを迎え、子供たちは三班に分かれて作りました。

初めは講師の方が作るのを見て覚え、子供たちがそれぞれ実際にやってみると、「縄もじり」がなかなか難しく苦戦していましたが、皆真剣に取り組み、とても上手に仕上がっていました。子供たちに感想を聞くと、「初めて作ったので難しかった」「楽しい思い出になった」「これを考えた人はすごい」など、難しいながらも楽しんで作る事ができました。

子供たちには、自分で作ったしめ縄をぜひ自宅に飾っていただき、しめ縄作りの伝統を受け継いでもらえたら幸いです。

講師の方々、東和小の先生方、ありがとうございます。

# 地元産小麦粉を使った

## 手打ちうどん



子供達もお手伝い!



針道の五反田区では、十一月二十五日に『女性の会』の皆さん

による手打ちうどん作り講習会が行われました。その日は日曜日でしたが、子供を含め計十四名と多数の参加者があり、うどん作り経験者の方に教えていただきながら、皆和気あいあいと作っていました。コシがあつて、とてもおいしいうどんでした。

うどんを試食した後は、これからの集落づくりについて話し合い、様々な意見が出されました。次回はぜひ男性の方々にも参加していただき、集落活性化のための案を出していただけたらと思います。

五反田区の皆さん、ありがとうございます。

### お祭りイベントレポート

## 都会との交流

去る十二月の第一日曜日に、『木幡の幡祭り』が開催されました。

近年、各堂社では、幡の担ぎ手不足による幡奉納数が減少し悩んでいることから、「日本中の素敵な人に出会う旅」をテーマに、田舎と都会をつなぐ旅の企画や販売を手がける「あうたび合同会社」と連携し、イベント参加による都会との交流を図りました。



六名の参加者は、幡祭り前日に桜畑堂社にて幡作りと水垢離(みずごり)を体験し、終了後は桜畑堂社に戻り地域住民との交流をした後、高槻区の農家民宿に宿泊しました。

イベント当日は桜畑堂社と共に行動し、全行程終了後には、反省会に参加したのち帰路につきました。

参加された方々からは、桜畑堂社の皆さんに感謝の声が聞かれました。



### 隠れ文化財

## 松尾芭蕉句碑

松尾芭蕉といえば、学校教科書でも取り上げられ、誰でも一度は耳にしたことのある元禄時代の俳人です。

松尾芭蕉は、おくのほそ道の旅など、全国を巡り約九百もの俳句を詠み、今なお何かとその俳句を耳にすることが多いのではないのでしょうか。

あまり知られてはいませんが、その松尾芭蕉の句とされる石碑が太田西谷区住吉神社入口に残っています。石碑には、『升(ます)買って分別変る月見かな』と刻まれています。

大正時代の初め頃に立てられたと聞いていますが、興味のある方はぜひ一度足を運び、元禄文化に触れてみてはいかがでしょうか。



松尾芭蕉の句が力強く刻まれている。

### 集落支援員先進地視察研修

## 新潟の現状

十一月の初めに、新潟県の上越市と阿賀町へ視察研修に行き、現地の集落支援員の方々と意見交換をしてきました。

上越市では、中山間地域での高齢化率(65歳以上人口の占める割合)が約38%であり、阿賀町に至っては約47%と、かなり高齢化が進んでいます。(東和地域では現在約39%)

上越市のある集落では、廃校になった小学校をグループホームや水耕栽培の施設として活用したり、町内の有志による、高齢者のための買い物・外出支援などが行われているそうです。

阿賀町では、高齢化と人口減少が急速に進み、地域活力が衰退している中で、特に「お年寄りが買物に不自由している」という現実に向直し、集落支援員による地域の見守りを兼ねた移動販売をしています。現在五戸以下の集落が四集落あり、すでに消滅してしまつた集落もあるそうです。

東和地域の十年後・二十年後もそうなるってしまわないよう、集落活性化のための対策が今から必要なのだと改めて感じました。